小　坂　町
地震防災マップ

地域の危険度マップ
揺れやすさマップ

地震防災マップとは

このマップは、小坂町内を震源とする直下型地震（マグニチュード 6.9）が発生した場合、小坂町で予測される震度や建物の被害状況を示したものです。

このマップを参考に地域の状況を知り、日ごろから地震に対する備えを心がけましょう。

ただし、あくまでも予測値のため、マップに表示した以上の震度が考えられますので、十分な注意が必要です。

小坂町　平成２２年１１月発行

災害用伝言ダイヤル 171　災害発生時に被災地の方と連絡・安否確認

家族間や知人間などの、安否の確認連絡に活用できます。ご利用にあたっての事前契約等は、一切不要です。

録音方法　1 7 1 ➡ 1 ➡ (X X X X) X X - X X X X ➡ 伝言を入れる（1メッセージあたり30秒以内）

自分の電話番号(市外局番から)

音声による案内が流れます

被災地の方は自宅の電話番号、被災地以外の方は被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルしてください。

再生方法　1 7 1 ➡ 2 ➡ (X X X X) X X - X X X X ➡ 伝言を聞く

相手の電話番号(市外局番から)

音声による案内が流れます

被災地の方は自宅の電話番号、被災地以外の方は被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルしてください。

171へダイヤルすると、ガイダンスが流れますから、それに従って伝言してください。
伝言ダイヤルサービスの開始は、テレビ・ラジオなどで通知されます。

体験利用日
- 毎月1日 00:00～24:00
- 正月三が日（1月1日00:00～1月3日24:00）
- 防災週間（8月30日9:00～9月5日17:00）
- 防災とボランティア週間（1月15日9:00～1月21日17:00）

携帯電話災害用伝言板サービス

震度６弱以上の地震などの大きな災害が発生したときに、携帯電話・PHS を利用して自身の安否確認を登録、家族や友人の安否確認をすることができます。

それぞれの携帯電話・PHS の「トップメニュー」から「災害用伝言板」を選択してください。

※他社携帯・PHS およびパソコンなどからも、家族や友人の安否情報を確認することができます。

NTTドコモ	http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi
ソフトバンクモバイル	http://dengon.softbank.ne.jp/
イー・モバイル	http://dengon.emnet.ne.jp/
ウィルコム	http://dengon.willcom-inc.com
au by KDDI	http://dengon.ezweb.ne.jp/

災害時の情報入手先　テレビ・ラジオなどからの情報収集に努めてください。

気象庁（地震情報）	http://www.jma.go.jp/jp/quake/
内閣府（防災情報のページ）	http://www.bousai.go.jp/5jishin/
日本道路交通情報センター	http://www.jartic.or.jp/
秋田県防災ホームページ	http://www.akita-bousai.jp/
小坂町ホームページ	http://www.town.kosaka.akita.jp/

小坂町役場
〒017-0292　秋田県鹿角郡小坂町小坂鉱山字尾樽部37番地2　TEL：0186(29)3901

震度とは

震度とは、地震のときの揺れの強さの程度を を示すものです。
地震の揺れにより、どのような現象の被害が発生するか一般的に例示しています。

気象庁震度階級関連解説表より一部抜粋

震度4
ほとんどの人が驚く。歩いている人のほとんどが、揺れを感じる。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。

屋内の状況:電灯などのつり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。座りの悪い置物が、倒れることがある。
屋外の状況:電線が大きく揺れる。自動車を運転していて、揺れに気付く人がいる。

震度5弱
大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。

屋内の状況:電灯などのつり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。座りの悪い置物の大半が倒れる。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。
屋外の状況:まれに窓ガラスが割れて落ちることがある。電柱が揺れるのがわかる。道路に被害が生じることがある。
耐震性が低い木造建物:壁などに軽微なひび割れ・亀裂がみられることがある。

震度5強
大半の人が、物につかまらないと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。

屋内の状況:棚にある食器類や書棚の本で、落ちるものが多くなる。テレビが台から落ちることがある。固定していない家具が倒れることがある。
屋外の状況:窓ガラスが割れて落ちることがある。補強されていないブロック塀が崩れることがある。据付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。自動車の運転が困難となり、停止する車もある。
耐震性が低い木造建物:壁などにひび割れ・亀裂がみられることがある。

震度6弱
立っていることが困難になる。

屋内の状況:固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
屋外の状況:壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
耐震性が高い木造建物:壁などに軽微なひび割れ・亀裂がみられることがある。
耐震性が低い木造建物:壁などのひび割れ・亀裂が多くなる。壁などに大きなひび割れ・亀裂が入ることがある。瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

震度6強
立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。

屋内の状況:固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
屋外の状況:壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。
耐震性が高い木造建物:壁などにひび割れ・亀裂がみられることがある。
耐震性が低い木造建物:壁などに大きなひび割れ・亀裂が入るものが多くなる。傾くものや、倒れるものが多くなる。

震度7
立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。

屋内の状況:固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。
屋外の状況:壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物がさらに多くなる。補強されているブロック塀も破損するものがある。
耐震性が高い木造建物:壁などのひび割れ・亀裂が多くなる。まれに傾くことがある。
耐震性が低い木造建物:傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。

木造建物(住宅)の定義
(注1)木造建物(住宅)の耐震性により2つに区分けした。耐震性は、建築年代の新しいものほど高い傾向があり、概ね昭和56年(1981年)以前は耐震性が低く、昭和57年(1982年)以降には耐震性が高い傾向がある。しかし、構法の違いや壁の配置などにより耐震性に幅があるため、必ずしも建築年代が古いというだけで耐震性の高低が決まるものではない。既存建築物の耐震性は、耐震診断により把握することができる。

(注2)この表における木造の壁のひび割れ、亀裂、損壊は、土壁(割り竹下地)、モルタル仕上壁(ラス、金網下地を含む)を想定している。下地の弱い壁は、建物の変形が少ない状況でも、モルタル等が剥離し、落下しやすくなる。
(注3)木造建物の被害は、地震の際の地震動の周期や継続時間によって異なる。平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震のように、震度に比べ建物被害が少ない事例もある。

地震発生！そのときどうする？

地震のとき、まず自身の安全確保が第一です。
身の回りのもので頭や体を守り、冷静に行動できるよう、地震発生に備え日ごろから防災意識を高めましょう。

まずは自分の身の安全を確保しよう
ゆれを感じたら、じょうぶな机やテーブルの下にもぐるなどして頭を守りましょう。

ドアをあけて出口を確保しよう
ゆれがおさまったら、ドアを開けて出口を確保しましょう。うごくときはスリッパをはきましょう。

ゆれがおさまったら火の始末をしよう
大きくゆれている最中にムリをして火を消そうとすると、大やけどをすることがあるので注意しましょう。

避難するときは徒歩にしよう
ヘルメットや防災ずきんをかぶろう。非常持ち出し品など、必要最小限のものにしましょう。

あわてて外に飛び出さないようにしよう
屋根がわらや看板などが落ちてきてけがをする危険性があります。

正しい情報を入手しよう
地震は1分過ぎればまず安心。家庭などで話し合ったことを思い出しましょう。

総務省消防庁「わたしの防災サバイバル手帳」より抜粋

ブレーカーを落とす
漏電による火災の恐れがあるので、避難する際は必ずブレーカーを落としましょう。

忘れないで、連絡メモを！
避難時など自宅を離れる場合、玄関など見やすい場所に避難先や安否情報を書いたメモを貼りましょう。

パパへ
○○公民館へ避難します。
みんな無事です。
21日午前11時　ママより

非常用持出品

●非常用持出品は、すぐ取出せる場所にまとめて保管しておきましょう。
●家族構成など必要に応じて準備しておきましょう。乳幼児やお年寄りなどで特に必要なものがあればつけ加えておきましょう。
●非常用持出品は定期的に点検をし、保存状況や使用期限などをチェックして、必要に応じて新しいものに交換しましょう。

一次持出品（例）
一次持ち出し品は大きな地震が発生して避難する際、最初に持ち出すべきものです。

貴重品
現金（10円があると公衆電話利用に便利）、預金通帳、印鑑、免許証、保険証など。

懐中電燈
できれば1人に1つ。予備電池も用意。

非常食
カンパンや缶詰など火を通さなくても食べられるものや、栓抜きなど。

タオル・下着・靴下など

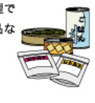
携帯ラジオ
AM、FM両方が聞けるものを。予備電池など。

救急医薬品・常備薬
ばんそうこう、傷薬、包帯、胃腸薬、持病のある方は常備薬など。

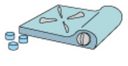
その他
ティッシュ、軍手、ロープ、マッチ、洗面用具、生理用品など。

二次持出品（例）
大災害時に、組織的に救援・復旧活動が軌道に乗るまで、最低3日間は自活できるようにしておきましょう。

食料
米や簡単な調理で食べられる食品など。



燃料
卓上コンロや固形燃料など。



飲料水
1人1日3リットルが目安。ポリタンクなどに保存しておきましょう。

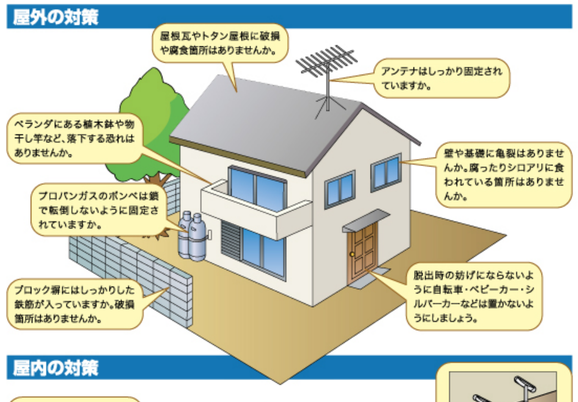
枕元には
●夜中の地震に備えて、懐中電灯、ラジオ、靴などを用意し、袋にいれておきましょう。

車の中には
●パール、ジャッキ、テント、毛布、寝袋、ビニールシートなども車の中や取りやすい場所に用意しましょう。

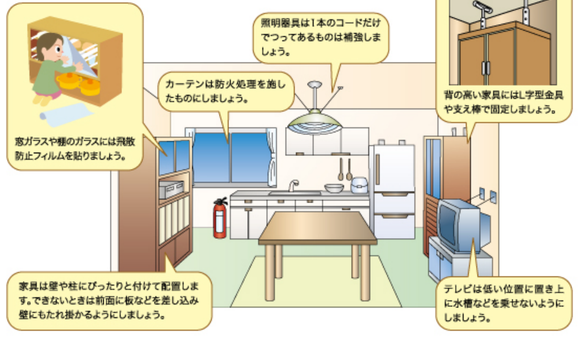
わが家の防災対策

私たちができる最も手軽で有効な地震対策は、家具の転倒・落下を防ぐ対策と、家の周囲のブロック塀などの安全対策です。今のうちに家の内外を点検して、以下のような対策を進めておきましょう。

屋外の対策

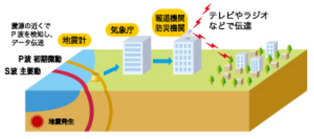


屋内の対策



緊急地震速報が出されたら

緊急地震速報は見聞きしてから、強い揺れが来るまでの時間が数秒から数十秒しかありません。
その短い間に身を守るための行動を取る必要があります。



緊急地震速報は地震の発生直後に、震源に近い地震計でとらえた観測データを解析して震源や地震の規模（マグニチュード）を速ちに推定し、これに基づいて各地での主要動の到達時刻や震度を推定し、可能な限り素早く知らせる情報です。緊急地震速報がでたら周囲の状況に合わせて落ち着いて避難してください。

家庭では

頭を保護し丈夫な机の下などに隠れる。慌てて外へ飛び出さない。

人が大勢いる施設では

係員の指示に従う。落ち着いて行動。慌てて出口に走り出さない。

自動車運転中は

慌ててブレーキをかけない。ハザードランプを点灯し、揺れを感じたらゆっくり停止。

屋外（街）では

ブロック塀の倒壊等に注意。看板や割れたガラスの落下に注意し、ビルのそばから離れる。

鉄道・バス乗車中は

つり革、手すりにしっかりつかまる。

エレベーターでは

最寄りの階で停止させすぐに降りる。

わが家の防災メモ

いざというときのために、最寄の避難場所や、家族がはなればなれになった場合の集合場所、連絡先などを確認しておきましょう。

わが家の防災メモ					
指定避難所					
家族がはなればなれになった場合の集合場所					
家族等の連絡先					
名前	連絡先	メモ	名前	連絡先	メモ